

○フクロシダの腺毛 (伊延敏行) Toshiyuki INOBE: Glandular hairs of *Woodsia manchuriensis*

昨年 8 月に伊東豊江氏が高知県土佐郡本川村高嶺で毛の多いフクロシダを採集された。このものは外形は普通のフクロシダと変りないが微細な毛が体一面に、すなわち葉柄、中肋、葉の表面・同裏面、鱗片、胞子のうなど至る所にはえているが、特に葉の表面にはビロード状に密生している。乾燥標本になるとやや見にくいだが、生品ではよく見え、光に透かしてみると黄金色の光沢がある。そこで顕微鏡で観察すると、驚いたことにこの毛は普通の毛でなく頭のまるい腺毛であることがわかった。今までフクロシダに毛のあることは多く報告されているが、腺毛についてはまだ報告を見たことがないので報告する。

腺毛は写真のような形態のものであるが、図 1 のように頭部から粘液の分泌しているものも見られた。2 は葉柄、3 は葉の周辺、4 は鱗片、5 は胞子のうに見られるものである。大きさもさまざまで、長さ 81-(95)-121.5 μ 、幅 13.5-(18.6)-27 μ 、頭部の直径 15.8-(20.8)-27 μ を計った。鱗片の腺毛が最も小型で、胞子のう、葉面、中肋、葉柄の順に大きさは増している。腺頭部は球形のものが普通であるが倒卵円形のもの、長卵円形のもの、こん棒状に肥大したもの、あるいは菌傘状になったものが見られた。6 は鱗片で包まれた約 7-8 mm 大の幼芽に発生していたもので、多分腺毛に発達する初期の毛と思われる。

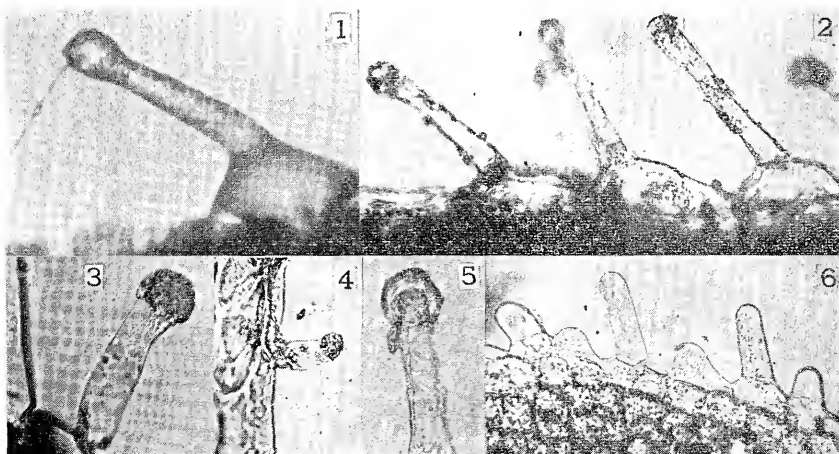


図 1-6. フクロシダの腺毛, 説明は本文中。

今回のようにすごい多毛な型は、初めて見るもので非常に珍しいと思ったので伊藤洋先生にお送りした。先生は確かに毛が多いがフクロシダには無毛のものから多毛

のものまでいろいろの段階のものがあって連続するし、手もとの標本の中では武蔵奥秩父や下野古賀志山産のものにはこれに近い毛があるし、肉眼や虫めがね的には無毛と思われるものにも低倍率の顕微鏡では案外多数の毛が見えることなど数々のお教をいただいた。さっそく顕微鏡で見たところ無毛型と思っていた標本にも毛のあることがわかった。しかもそのほとんどが腺毛で、腺毛でないものも發育すれば腺毛になるかも知れないような形態のものであることがわかった。

(四国女子短期大学生物研究室)

○ *Bidens* 属の新外来品オトメセンダングサ (浅井康宏) Yasuhiro ASAI :

On a new alien weed, *Bidens aristosa* (Michaux) Britton in Japan.

センダングサ属 *Bidens* の植物は、種類も極めて多く、現在までに我国へも数種のものゝ帰化が報告されているが、ここに北アメリカ原産の大形の美しい舌状花をつける 1

種の渡来を追加記録しておきたい。

これは、筆者が最近、東京都内の外来雑草フロラを調査中、その存在に気付いたもので、種々検討の結果、*Bidens aristosa* (Michaux) Britton と判定した。



Fig. 1. Flowering branches of *Bidens aristosa* (Michaux) Britton found at Shinagawa, Tokyo.

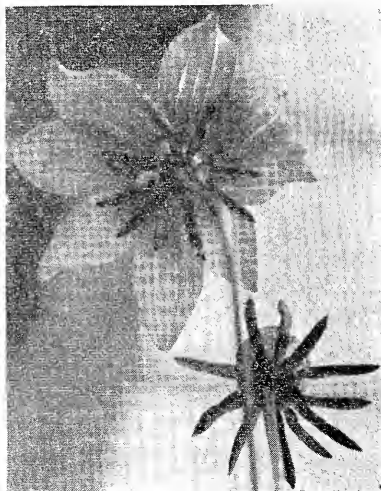


Fig. 2. Flower heads of *B. aristosa* (Michaux) Britton.